

総合的な学習の時間学習指導案

単元名（テーマ）「考えよう みんなの幸せ」

令和5年11月14日（火） 第5校時 体育館

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童の実態

単元の目標	地域の高齢者のくらしを支える人々や仕組みを調べたり、高齢者体験や地域の高齢者と交流したりすることを通して、高齢者の思いや願い、生活を理解し、その人の立場になって考えるとともに、地域の一員として暮らしていくために、自分たちができることを考え、行動することができるようにする。		
児童の実態	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	(削除)	(削除)	(削除)

2 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①高齢者の方の思いや願い、生活について理解するとともに、自分たちの地域には、様々な人達がお互いに支え合って生活していることに気付いている。 ②日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、わかりやすい話し方をしたりして、高齢者等に適切に関わっている。 ③地域の高齢者を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、高齢者の思いや願い、生活について探究的に学んだことによる成果であることに気付いている。	①体験活動や高齢者へのインタビューを通して、課題を設定し、解決の方法や手順を考えている。 ②目的に応じて、インターネットやインタビューなどで必要な情報を集めている。 ③課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し、考えている。 ④他教科等で培った表現力等を生かし、相手に応じた発表、表現、企画をしている。	①身近な人と協力して探究活動を行おうとしている。 ②探究活動の中で、自分や友達の意見や考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとしている。 ③地域の高齢者との関わりの中で、自分にできることを見つけようとしている。

3 人権教育との関わり

現在の日本において、高齢社会は十数年続いており、日本全体で考えていかなければならない大きな社会問題である。そんな状況だからこそ、政府の施策に任せておくだけでなく、わたしたち自身もこの問題と向き合い、高齢社会の問題を理解し、一人一人ができる取り組みを考えていく必要がある。

そのための第一歩として、高齢者が生活する上での問題や高齢者の社会との関わりに対する思いや願いについて理解を深めることが大切である。

そこで、疑似体験をすることで、高齢者の立場になって思いや願いを想像し、自分ができる取り組みを考える学習を行う。さらに、高齢者との交流や高齢者から話を聞くことを通して、豊かな経験を持つ高齢者に対する尊敬と感謝の心を育んでいく。

4 指導及び評価、ICT 活用の計画（全 32 時間：本時第 14 時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

過程・時間	学習活動	知	思	主
ふれる (8)	福祉について知る。体の不自由な方や高齢者の方とともにより良く生きる方法を考える。 ・ブラインドウォークを行う。 ・群馬県社会福祉総合センターを見学し、手話体験・点字体験などを行う。 ・高齢者体験・車椅子体験を行う。	①		
	体験を通して分かったこと、新たな疑問点について考える。 高齢者について考える。 ・高齢者になるとどんな不便を感じているのかを考えたり、自分の60年後を考えたりする。 ・高齢者との交流会で質問すること、配慮することを考える。 ・KJ法で話し合う。(あ)	●①	③	
つかむ (4)	高齢者との交流会を行い、自分も高齢者も幸せになる活動を考え、決める。 ・KJ法で話し合う。(あ)	②	①	③
追究する (18) 本時 2時間目	プロジェクトを成功させるために、今後必要なことを考え、計画を立てる。 ・活動についての内容を整理する。(あ) ・KJ法で話し合う。(あ) ・各班で計画を見合い、よりよい計画を立てる。(あ)(い)		●①	②
	プロジェクトを成功させるための情報を集める。 ・本や資料、インターネットを活用して調べる。(え) ・実際に見に行ったり、電話でインタビューをしたりして情報を集める。(お)		②	●①
	プロジェクトを成功させるための準備をする。 ・ルール、道具等を確認し決定する。 ・リハーサルをして、実施できるか確認する。		③	②
	プロジェクトを実行する。 ・スマイルボーリングをする。 ・お茶会をする。	②	④	
まとめる ひろげる (2)	高齢者も自分たちも幸せな町づくりについて考える。 ・プロジェクトを実行して考えたことをまとめる。 ・今後自分たちにできることを考える。	③		③

*活用する学習支援ソフト・コンテンツ等：(あ) ジャムボード (い) スプレッドシート (う) スライド
(え) インターネット (お) カメラ・動画

II 本時の学習 (14/32)

1 ねらい プロジェクトを成功させるために、相手のことを配慮しながら学習計画を立てる。

2 人権教育の視点 (育てたい能力・態度)

- 感性：高齢者体験や高齢者との交流会を基に、相手の気持ちを大切にしながら関わろうとする気持ちをもつ。
- 判断力：交流する高齢者やお世話になる方々の立場を踏まえ、プロジェクトを成功させるために必要なことを判断する。

<p>主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目（観点） ◎人権教育の留意点</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><めあて> プロジェクトを成功させるために、よりよい学習計画を立てよう。</p> </div> <p>S：前は、グループで計画を立てたんだっとな。 S：他のグループの計画とどこがちがうかな。 S：前回、高齢者に先に確認した方がよいと分かったね。</p>	<p>★他の班との比較ができるように、前時で発表した各班の学習計画をスプレッドシートにまとめ提示する。 ○今後の学習に生かせるように、具体的な計画を称賛する。 ○さらにより計画にするために、自分たちの班と他の班との違いに目を向けるよう助言する。 ○計画のどの部分を改善すればよいか明確にするために、前時の学習で出された意見を振り返る。</p>
<p>2 さらによい計画にするために気を付けなければならないことや必要なことをグループで話し合い、発表する。 (25分)【★共同編集】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>さらにより計画にするために気を付けなければならないことや必要なことを出し合って、グループで話し合いましょう。話し合った結果を理由もはっきりさせて発表しましょう。</p> </div> <p>S：相手の都合を聞いてから計画を立てた方がよい。 S：教えてくれるか確認の電話を先にした方がよい。 S：場所が使えるかどうか事前に確認しないとイケない。 S：交流会では高齢者の方が聞き取れない場面があったから、もっと大きい声で話そう。 S：電話をかけたことがないから、練習もした方がよいかな。</p>	<p>★以前学習したことを簡単に振り返ることができるよう、同じジャムボードに付け足していく。 ○気を付けることが考えられない児童には、高齢者との交流会で良かったこと、できなかったことを思い出すよう助言する。 ○必要なことが考えられない児童には、交流会までに行ったことを思い出すよう助言する。 ○お互いのグループの参考となるよう、理由をはっきりさせて発表するよう助言する。 ○電話をかける前に練習や内容の確認が必要であることに気がつけるよう、「電話をかけたらなんて言うの。」と問いかける。 ◎相手の立場を配慮して考えられない児童には、お世話になる相手の生活や状況を想像するよう助言する。 ◎気を付けることを考えやすいように、交流会で話していただいた「困っていること」などを掲示しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆評価項目（思） 付箋の記述内容から、「プロジェクトを成功させるために、今後必要なことを考え、計画を立てる」を評価する。</p> </div>
<p>3 計画表を完成させる。(10分) 【★共同編集】</p> <p>S：私達の班は、電話で確認することが入っていないから、入れないとだね。 S：相手の都合が大切だから、最初に電話をかけよう。 S：電話をかける前に練習した方がよいかな。 S：電話をかける前に相手に確認することを整理した方がよさそうだね。</p>	<p>★速く計画表が完成するように、前時に作成した計画表のテキストボックスを動かせば良いことを確認する。 ★計画のどの部分を改善したか分かるように、学習計画のスプレッドシートは電子黒板で提示したままにする。 ○計画の順番で悩んでいる児童には、だれの都合が優先されるべきか考えるよう助言する。</p>

4 次時への見通しをもつために学習内容を振り返る。(5分)

<振り返り>

S : 次の時間は、電話で聞くことを考えよう。

S : ○○をするのにどんな道具が必要か調べよう。

S : お世話になる方のことを考えながら、計画を立てられた。

○計画表なので、途中でアクシデントが起きたり、他にやらなければならないことが出てきたりした場合は、臨機応変に変更して良いことを確認する。

○次時の活動の見通しをもつことができるように、「友達の考えでなるほどと思ったこと」「次時に取り組みたいこと」の視点で振り返りを記述するよう促す。

◎お互いのよさを感じられるように、他の班のよいところを見つけられた児童がいたら指名する。